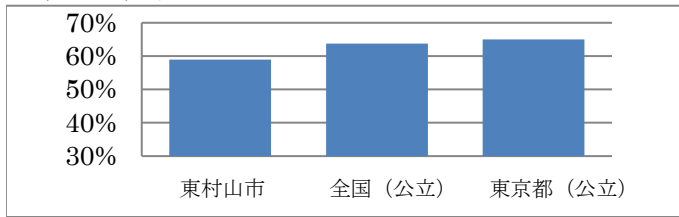


【国語】

<平均正答率>



<課題点>

「話すこと・聞くこと」では、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること」や、「目的に応じて、質問を工夫すること」に課題が見られた。

また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること」に課題が見られた。

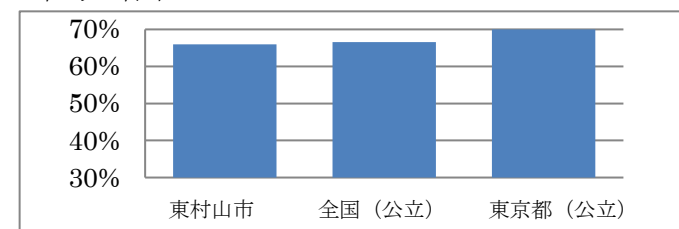
<手だて>

「話すこと・聞くこと」では、話し手の意図を掴んだり、自分の考えを的確に伝えたりするために、対話的な学習をより一層充実させていく必要がある。日々の授業の中で、「提案を聞いて自分の考えをまとめる活動」や「資料を用いたプレゼンテーションを聞いて助言する」活動を通し、話し手が伝えようとしていることの要旨やその理由を正確に捉えたり、自分の伝えたい内容を、根拠を示しながら順序立てて話をしたりするよさに気付かせ、繰り返し経験させていくことが大切である。

また、ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができるようにするために、東村山市版国語基礎ドリル第4学年「ことわざ」を参考に、実際にことわざを使い文章を作成する活動を取り入れることが重要である。

【算数】

<平均正答率>



<課題点>

「数と計算」では、「示された除法の式の意味を理解すること」や「棒グラフを比較し、その差を読み取ること」に課題が見られた。また、「量と測定」では、「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に求め方と答え方を記述し、その結果から判断すること」に課題が見られた。

<手だて>

「数と計算」では、問題づくりの場面で作った式の意味を理解できるようにするために、既習事項を基に、問題の数値を替え、修正の仕方を複数考えられる活動を取り入れることが重要である。また、複数のグラフを比較し、その差を読み取ることができるようにするために、グラフを比較し、視覚的に捉える活動を取り入れるよう工夫することも大切である。

場面の状況を捉え、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答え方を考え、結果を判断できるようにするために、場面の状況が変化した場合に、変わることに変わらないことを捉え、数学的に表現・処理したことや自らが判断したことを振り返り、評価・改善できるような活動を取り入れることが重要である。

全体的な傾向として

国語、算数ともに東京都及び全国の平均値を下回った。国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、ことわざや漢字を使用する問題で無回答が多かった。その課題を解決するためには、授業の中で児童がこれらを実際に活用する場面を設けた「対話的な学び」を行うことが重要である。算数では、量と測定において、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題や、「数と計算」において、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題で無回答が多かった。いずれも記述式の問題であるため、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、身に付けた知識・技能を活用できるよう、児童が自らの考えを説明し合う活動を取り入れていくことが大切である。

<生活習慣や学習状況等に関すること>

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」や「読書が好き」と回答した児童は国語、算数ともに正答率が高い傾向にある。「自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は昨年度より5ポイント増えたが、東京都と比べ3.5ポイント低く、読書が好きな児童は東京都と比べ1.9ポイント低い傾向が見られた。読書時間が1時間より少ない(教科書や参考書、漫画や雑誌を除く)と回答した児童の割合は、昨年同様全体の80%を占めていた。
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりの勉強時間が1時間より少ない」(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)と回答した児童の割合は、昨年と比べ1ポイント減少し全体の36.7%を占めており、そのように回答した児童は、1時間以上と回答した児童に比べ、教科に関する調査の平均正答率が低い傾向にある。
- 「家庭学習」において、自分で計画を立てて学習に取り組む習慣を身に付けるよう、学校と家庭が連携していくことが大切である。その際、「家庭教育の手引き書」を活用し、保護者会等で具体的にどのような項目を「家庭のルール」として設定していくとよいのか示し、支援していく必要がある。また、読書に関しては学校図書館担当者連絡会における情報共有、各学校における東村山市立図書館との連携及び学校図書館専任司書の有効的な活用を通じて本が好きという児童の育成を推進していくことが大切である。